



「ヤマメの塩焼きを準備する子どもたち」田舎家玄関から撮影
(子どもたちは、自分たちで役割分担などを考え行動しています)



写真上から

- ヤマメの稚魚 子どもたちが養育中
- ヤマメに餌をやる小さな女の子
- どのヤマメが一番大きいか品定め
- 女の子だって手づかみで捕まえます
- 子どもたちを見守る山口捷彦さん



子どもたちの歓声と、山口捷彦やまぐちさんの元気な声が交差しています。ここ小長井にある「田舎家」、山口さんが主催する「やまめっ子クラブ」の会場です。6月11日、ヤマメのつかみどりや稚魚の放流活動が行われました。

このクラブは、人工授精したヤマメを子どもたち自らが育てて、地域の沢や川に放流する活動で、ヤマメの養育を通して「生き物を育てる難しさ」や「ふる里を親しむ心」などを学んでいく体験学習の場です。

このクラブ発足のきっかけは、宮島先生（現中央小教諭、当時本川根町教育委員会）から山口捷彦さんにあてた1本の電話でした。

「その頃学校では、地元の人たちを講師に迎えて実地で学ぶ、という授業を行う予定でした。そこで、ヤマメの養殖を手掛ける山口さんに相談を持ちかけたんです」と話す宮島先生は、現在では一保護者としてこの会を手伝っています。